

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしやしよーまんしゅぷ 有限会社ショーマンシップ		団体ウェブサイトURL https://www.showman.jp/
代表者職・氏名	代表取締役・仲谷一志		
制作団体所在地	〒 810-0063	最寄り駅(バス停)	福岡市地下鉄 唐人町駅 福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203
電話番号	092-716-3175		
ふりがな 公演団体名	げきだんしよーまんしゅぷ 劇団ショーマンシップ		団体ウェブサイトURL https://www.showman.jp/
代表者職・氏名	座長・仲谷一志		
公演団体所在地	〒 810-0063	最寄り駅(バス停)	福岡市地下鉄 唐人町駅 福岡県福岡市中央区唐人町1-10-1カランドパーク203
制作団体 設立年月	1994年10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 仲谷一志 取締役 市岡洋・生田晃二 企画制作部長 宮崎果林		役員:3名 制作スタッフ4名 役者15名 【加入条件】毎年オーディションを行い、劇団理念に適合する優秀な人材のみ加入可能。
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	宮崎果林
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	田村真理
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@showman.jp		

制作団体沿革	<p>平成 6年10月 「劇団ショーマンシップ」設立。 平成11年 2月 「有限会社ショーマンシップ」として法人化。 平成12年 4月 「唐人町商店街(福岡市中央区)」に拠点を移し、 「甘棠館Show劇場(客席84席)」の運営を始める。 平成16年 4月 「日本児童・青少年演劇団協同組合」に加盟。 平成21年 4月 「ユメニティのおがた(福岡県直方市)」とレジデンスカンパニー契約を結ぶ。 毎年、劇場公演・直方市内の小学校でのアウトリーチ事業を始める。 平成26年12月 創立20周年記念公演「亀井南冥伝～金印の謎を生んだ男～」を博多座にて公演。 令和元年 12月 創立25周年記念公演「THE NIWAKA～博多の町の芸処～」を博多座にて公演。 令和 2年 2月 「ないた赤おに」の脚本を日本語と英語で織り交ぜた作品「The Red Monster Cried」を甘棠館Show劇場にて公演。 令和 2年 3月 「福岡市民文化活動功労賞」受賞。 令和 3年 4月 「あしや夢リアホール(遠賀郡芦屋町)」の運営を芦屋町より委託される。 令和 4年 2月 「ないた赤おに」を完全英語版とした「The Red Monster Cried」を甘棠館Show劇場にて公演。</p>	
学校等における公演実績	<p>平成14年度より学校公演実績あり 累計 約800公演 (直近) 平成30年度 「ノートルダム物語」 4校 「生きる！～十五少年漂流記より～」 4校 「ないた赤おに」 16校 「九州の民話めぐり」 1校 「インプロショー」 2校 「カラカラ王子とびちやびちや姫」 30園 計:57公演 令和元年度 「ノートルダム物語」4校 「生きる！～十五少年漂流記より～」11校 「ないた赤おに」19校 「砂漠の王子の冒険」5校 「インプロショー」2校 計:41公演 令和2年度 「ノートルダム物語」1校 「ないた赤おに」6校 「砂漠の王子の冒険」1校 計:6公演 令和3年度 「ノートルダム物語」14校 「生きる！～十五少年漂流記より～」5校 「ないた赤おに」23校 計:32公演 令和4年度 「ノートルダム物語」20校 「生きる！～十五少年漂流記より～」6校 「ないた赤おに」5校 「The Red Monster Cried」5校 計:36公演</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>平成18年度 「なりきりオウムとはりきりサーカス団」 福岡県立福岡聴覚特別学校 平成18年度 「ないた赤おに」 福岡県立筑後特別支援学校 平成19年度 「なりきりオウムとはりきりサーカス団」 福岡県立田主丸特別支援学校 平成20年度 「なりきりオウムとはりきりサーカス団」 福岡県立川崎養護学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 平成21年度 「ないた赤おに」 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」 平成22年度 「笑劇！黒田騒動」 特別支援学校「北九州高等学園」 平成23年度 「ノートルダム物語」 大分県立宇佐支援学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 滋賀県立草津養護学校 平成24年度 「ノートルダム物語」 三重県立豊学校 平成26年度 「ないた赤おに」 福岡県立直方養護学校 平成30年度 「ないた赤おに」 福岡県立小郡特別支援学校 令和 元年度「ないた赤おに」福岡県立南福岡特別支援学校 令和4年度「ないた赤おに」兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=Wikk tzBW9K0&t=10s
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団ショーマンシップ】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	現代の子供たちへ伝えたい！世界名作劇場「ノートルダム物語」		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	演目：ノートルダム物語 原作：ヴィクトル・ユゴー 脚色・演出：市岡洋 音楽：山浦弘志 振付：近藤勇人 パントマイムコーディネーター：TEN-SHO <div style="text-align: right;">公演時間 100 分</div>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	ヴィクトル・ユゴーの原作「ノートルダム・ド・パリ」の不条理さをしっかりと子供たちに伝え、その上で「生きる希望の物語」「小さな勇気が自分を変える物語」に脚色。 体育館が劇場になる本格的な舞台装置、時代背景を踏まえた衣装・小道具と視覚的にも優れ、調和の取れた総合芸術作品である。		
演目選択理由	本作は、主人公「カジモド」を通して「生きる力」「思いやりの心」「自分を信じる力と勇気」を育むことの出来る作品であり、同時に「笑い」と「涙」と「感動」という舞台の魅力を堪能できる作品である。また歌、踊り、大道芸などのパフォーマンスは『生身の人間が修練を重ね努力した結果』であることは子供たちに十分伝わるはずである。 本作の鑑賞、共演及びワークショップ参加は、子供たちの豊かな感性を育み、芸術鑑賞能力を高める事につながると確信している。 2021年、新たにオリジナル曲を2曲追加、よりミュージカルとしての完成度を高めている。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公が困難に直面したシーンで、乗り越えなければいけない「心の壁」を児童生徒全員の歌で応援。(歌「勇気！自信！」) ・ワークショップと当日のリハーサルを経て、俳優と同じように衣装・メイクをして本番に出演。出演者は1名～8名。 ・「街の観客」「ロマ」「兵士」役など、主に子供たちが笑顔になるシーン。 ・物語のハッピーエンドを出演者、生徒、先生、全員の歌で讃える。 ・ワークショップで歌唱指導を行い本番はフィナーレで大合唱。(歌「ノートルダム」) 		
出演者	カジモド:仁木祥太郎 エスメラルダ:ソフィア アルセーヌ:東沙耶香 ジェハン:古澤大輔 フィーバス:武東亜斗夢 兵士:片山涼平、三戸雄太、北川終斗 司教:寺崎索 クロピン:福澤究 ロマ:山口泰弘、田中耀大、桑野イリス、久保美月、今中智尋、木嶋涼乃 ※主な出演者プロフィール(別添②、参照)		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 16 名 スタッフ: 5 名 <hr/> 合計: 21 名	運搬	積載量: 4 t 車長: 8.7 m 台数: 1 台

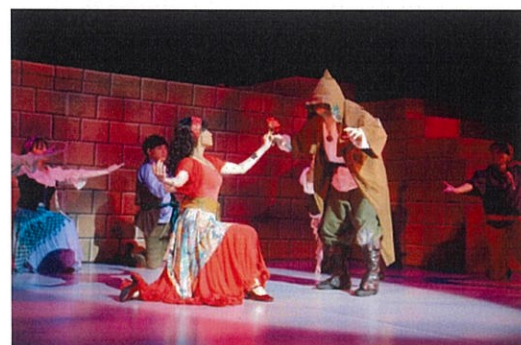
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00～13:00		13:30～15:10	0	15:20～16:55	16:50
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月		
				22日	22日		
	11月	12月	1月	計	91日		
	20日	10日	17日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。							
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安		1名～8名	
				鑑賞人数目安		～300名	



(図1) 舞台の設置状態。
体育館のフロアにセットを組みます。
舞台設置に必要な面積
横:13m以上 奥行:8m以上



(あらすじ)
その容姿の醜さゆえ「カジモド(神のいたずら)」と名付けられた、ノートルダム大聖堂の鐘撞き男。彼はある時、ジブシーの踊り子エスメラルダに出会い、恋心を抱く。そんな折、カジモドの育ての親である将官ジェハンが「町の治安を脅かすロマたちを全て捕らえてしまえ！」と部隊長フィーバスに命じるのだった。悩むカジモド。なぜなら彼もロマの血を引いていたのだった。兵士達から追われ、ノートルダム大聖堂に逃げ込んだエスメラルダを助け、匿うカジモド。ついにカジモドは、ジブシーたちとともにジェハンに立ち向かうことを決意する。その時、彼の出生の秘密が明かされる。そして、奇跡が起こる！



(みどころ)
2005年より18年間、多くの子供たちに感動を生んだ本作。児童・生徒が興味を持って鑑賞できるよう、耳に残るオリジナルの楽曲を修練を重ねた俳優たちが歌い、踊る、熱い作品である。劇中のロマのシーンでは、専門性の高い大道芸を披露する。

(図2・3) 上演の様子

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

【公演団体名 劇団ショーマンシップ】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～300名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準90分(10分休憩あり) ※学校の状況に合わせて、時間は変更可能。</p> <p>①『心と身体の準備体操』 コミュニケーションゲームを行い、児童・生徒の心と身体の緊張をほぐしながら「正しい答え」を見つけるのではなく、何が面白いのか発見することへ導いていく。</p> <p>②『作品紹介』 脚本・演出家の市岡による作品紹介。 写真やパネル、プロジェクターを使って作品の時代背景などを、わかり易く説明。 一方通行にならないように、補助者が児童・生徒の声を広いながら進行していく。</p> <p>③『参加シーンの稽古』 主人公を応援する歌とフィナーレの歌を指導のもと、全児童・生徒で合唱。 ※ワークショップ後も昼休みの校内放送や音楽の時間などでの練習を学校側に依頼。 (事前に学校側へ、CD・楽譜・歌詞カードを渡す。)</p> <p>④『芸にチャレンジ』 劇中に演じられる大道芸やパントマイムを指導。基本的な動きや表現を体感する。 特に劇中でも大いに沸くパントマイムは、基本を学べば、それぞれが自由に表現出来ることを実体験する。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>ワークショップでは子供たちの好奇心を育み、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。 「子供たち」が「先生」が何を求めているかの声を聞き、実施する学校ごとにワークを組み立てていく。作品の説明や時代背景の説明も子供の声聞きながら進行し、楽しく学習し、本番に向けて「観る」意識を高めていく。パントマイム・大道芸を体験することは、新しいことにチャレンジするという意欲を持たせ、向上心を高めながらも創作の喜びも体感させる。更に全校児童・生徒で主人公を応援する歌「勇気！自信！」、フィナーレで歌う「ノートルダム」を練習し、本番で合唱することで、一緒に舞台を創り上げ「感動の共有」を実感することになる。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>(図4) 脚本・演出家による作品紹介</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(図5) 歌唱指導の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(図6) パントマイム実践の様子</p> </div> </div>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団ショーマンシップ

】

①本事業に対する取り組み姿勢

※別添あり。

①本事業に対する取り組み姿勢(別添 No.4-① 参照)

「ノートルダム物語」スタッフ プロフィール(別添No.4-② 参照)

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

※別添あり。②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫(別添 No.4-③ 参照)

リンク先	No.4	【公演団体名	劇団ショーマンシップ】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 舞台芸術は、脚本家・演出家を始め、道具・照明・音響など多くのスタッフと俳優たちによって、創り上げる総合芸術である。ワークショップ、公演を通して、その魅力を子供たちを感じさせたい。 優れた舞台芸術に触れることは、子供たちの情操と想像力を育む上で大変効果的である。 スタッフ・俳優とともにスクラムを組んで一つの舞台作品を創り上げることは、感動の共有とともに、発想力とコミュニケーション能力を養う上でも有効であり、それを現場で周知させる。 ワークショップでは作品のテーマや時代背景などを学び取ることから始まり、出演体験では子供たちの個性を認め、その個性をもって役を演じるという体験から、「自分らしさ」と「自身の存在意義」に気付くと同時に、共に創る「仲間・友人の大切さ」をも認識することができる。鑑賞する児童・生徒や先生方、保護者にとっても、子供たちの新たな一面と出会う貴重な体験となるに違いない。 以上のことを踏まえて、本事業の目的と趣旨に沿うべく、各々の分野のプロ(スタッフ・俳優)がそれぞれの特性を活かし創り上げた。 本作品の鑑賞と参加によって子供たちの発想力やコミュニケーション能力が養われ、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上にもつながる事を確信している。</p> <p>《スタッフの取り組み》 脚本・演出 — 担当する市岡洋は、劇団の座付き劇作・演出の傍ら、児童劇団の主宰でもあり、二十数年にわたり子供たちとともにミュージカル作品を創り続けている。現在、国内外の舞台芸術界で活躍している卒団生もいる。市岡は、日頃より多くの子供たちとコミュニケーションを図り、現代を生きる彼らの視点に立ち作品を創っている。子供たちに「創る喜び」と「鑑賞する喜び」を与えることのできる脚本・演出である。</p> <p>音楽 — 担当する山浦弘志は、クラシックから現代音楽まで幅広く精通しており、数多くの舞台音楽を創り続けている。多くの児童劇団への楽曲提供も行っており、子供の歌唱に向けた楽曲制作に大変長けている。ミュージカル『ノートルダム物語』でも出演する子供たち、鑑賞する子供たちに無理のないキーとテンポで、心から楽しめ、大合唱できる楽曲制作に取り組んでいる。</p> <p>舞台装置・照明・音響・衣装 — 景色や場所・時代を変える舞台装置、時間を手玉に取る照明、会場中に澄み渡る歌声、そして、日常では決して出会うことのない華やかな衣装が、日頃使っている学校の体育館を劇場とし、夢と希望にあふれた空間へと変化する。 公演終了後はバックステージツアーも行う。子供たちと先生方全員が舞台裏を見ることで、そのクオリティの高さと裏方の努力を体感することが出来る。</p> <p>《俳優の取り組み》 俳優たちは「自信を持って生きる」ことの大切さを子供たちに伝えるため演出家とともにワークショップにて子供たちが作品への理解を深められるように指導し、観ることは勿論、演じることの楽しさを伝える。リハーサルでは出演する子供たち一人一人と向かい合って個性を引出し、緊張から心を解放させ、恥ずかしさを勇気とヤル気に変える。そして本番を迎え舞台に立ち、彼らが胸を張って表現した演技が観る側に伝わり、感動を共有した喜びを知ることができる。これにより「自分らしさ」の発見とともに、役を果たした達成感と共に創り上げた仲間への感謝、努力が報われる喜びを知り、大きな自信となって、公演後の学校生活にも大いに活かされると期待する。</p> <p>《作品創りの中での取り組み》 ヴィクトル・ユゴーの原作『ノートルダム・ド・パリ』による本作品ミュージカル『ノートルダム物語』。15世紀のフランスを背景としながらも、原作の持つ力強さはそのままに、不条理さを希望へと脚色し直し、多彩なエンターテインメントも演出に加え、子供たちに解り易く、楽しみながら学べ、長く心に刻まれる作品創りに取り組んでいる。 また、子供たちを取り巻く環境は、時代や場所によっても多様に変化し続けている状況のなか、将来への夢と希望を持ち続ける力を備えなければならないと考える。本作品は、そのための一つの道しるべとなってくれる作品であること、そして文化の担い手となる子供たちへ「生きる勇気」「思いやる心」「自分を信じる力」を与え、豊かな心を育むことのできる作品であることを確信している。</p>	<p>※スタッフプロフィール 別添No.4-②</p>	

リンク先	No.4	【公演団体名 劇団ショーマンシップ】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>		<p>脚色／演出：市岡 洋(いちおか ひろし) 劇団ショーマンシップ座付作家・演出家。 12年間俳優として活躍。3,000ステージを超える舞台と多数のTVドラマ、ラジオ、CMに出演。 劇作・演出に転向し、劇団ショーマンシップの旗揚げに参加。座付き作家・演出家となる。プロ劇団活動の傍ら、児童劇にも取り組み、1997年12月に劇団パワーキッズを旗揚げ。主催・劇作・演出として、オリジナルの子どもミュージカルを発表し続けている。創り上げた舞台は40作品を越える。常に「生きることの素晴らしさ」をテーマに創作を続ける。</p>
		<p>作曲：山浦 弘志(やまうら ひろし) Yamaura Office代表。 舞台音楽のスペシャリストとして創作を続ける傍ら、数々のCM音楽も手掛ける。 児童劇団パワーキッズの音楽の制作を19年手掛け、子供たちに音楽の素晴らしさを教示してきた。そこから世界に羽ばたき活動する卒団生が数多くいる。 (株)NTTドコモ(キッズプランでCM音楽担当) 九州国立博物館(2006年制作の国内外向けDVDですべての音楽を担当) 北九州市(2012年市制PR用VPですべての音楽を担当)</p>
		<p>パントマイムコーディネーター：TEN-SHO(てんしょう) 1981年に劇団「汎マイム工房」入所。 1987年イタリア・フランスにて海外公演実施。高い評価を得ると1999年大道芸ワールドカップin静岡において、JAPAN CUP CHAMPIONを獲得。 「STUDIO TOOLBOX」にて後進の指導にあたる一方、全国の各種イベント、TV、映画出演のほかにも、様々なジャンルのステージ公演などで幅広く活躍中。</p>

リンク先	No.4	【公演団体名	劇団ショーマンシップ	】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>本事業を効果的かつ円滑に実施するために以下の事項に関して工夫する。</p>	<p>《ワークショップにおける工夫》 (事前調査・協議)</p>		
	<p>学校側と学校の教育方針・理念、立地や地域の環境や特色、児童・生徒たちの特長、ワークショップに参加する児童・生徒の人数・学年やこれまでの演劇鑑賞経験とその反応等を伺い、綿密な打ち合わせを行った上で、効果的なワークショップの進め方を考え、実施校と協議の結果、決定する。ワークショップは、鑑賞意識を高めることが目的であるため基本的には「全校児童生徒の参加」が望ましく、ワークショップを体験してもらうことで、本事業の趣旨でもある文化芸術に触れ「豊かな創造力・想像力と思考力」を養われ、目的がより達成できると考える。</p> <p>(事前配布物) ワークショップや公演を実施するにあたって、スムーズな進行と公演告知のため劇中、全校児童・生徒が合唱する楽曲のCD音源と楽譜を配布。</p> <p>(ワークショップ実施) はじめに、劇団とワークショップ講師紹介と本事業の趣旨を子供たちに解り易く話します。その上で、以下の進行にしたがってワークショップを実施。</p> <p>《公演における工夫》 (搬入と仕込み) 搬入にあたっては、搬入経路、児童生徒の登校の時間を事前に学校側と確認し、安全を図る。舞台装置や機材は、危険なものもあるため、仕込みが終了まで児童生徒の出入りを禁止としている。安全第一がスムーズな搬入と仕込みの絶対条件と私たちは考える。</p> <p>(生徒参加稽古) ワークショップ前後に決められた出演希望の児童生徒たちと稽古を行う。子供たちはこの稽古の中で、信頼し合い、協力し合って一つの舞台作品が創り上げられるのだということを認識し、その上で、役の必要性、つまり自分自身の存在意義も確認することとなり、それが責任感と自信につながっていく。</p> <p>(笑いと感動の本番) 物語の中でも反応が分かりやすい、笑いの多い場面にて参加児童生徒さんの出演。伸びのびと演じる仲間に、観客の児童生徒たちも、大興奮し、大きな笑いと言葉の拍手が舞台を包み込む。続いては「主人公が勇気をもって、臆病だった自分の心の壁を乗り越えていく」場面です。「勇気！自信！」という歌で主人公を応援する。 エンディングでは、全校挙げての大合唱。出演者と観客が一つになって、感動の舞台を創り上げる。</p> <p>(終演後) カーテンコールにて出演参加の児童生徒たちを紹介する。拍手をもらった彼らは自信と達成感を得て、今後の学校生活に必ず活かされる。 実施校より希望があれば、カーテンコール後、全校児童生徒の感想や質問を聞く座談会も実施。私たちが作品を向上させるための参考にもなり、子供たちが文化・芸術への興味と関心を高めたことを確認する場ともなる。 バックステージツアーも実施。二階建ての舞台セットを通して体育館を退出。先生方、保護者や地域の方々にもステージを体感してもらうことで、本事業の素晴らしさを実感できるものと確信する。</p> <p>《公演アンケートを作品に活かす》 公演後各学校のアンケートを見ると、本作品は本事業の主旨と合致した効果を生み出している。鑑賞環境については、いくつか意見があり(主に、体育館の暑さ、学校の地域内に芸術鑑賞を実施するにあたり、ふさわしい施設が無い、など)劇団としては可能な限り、学校側と調整し、時期・時間などを含め、好環境を整えたい。</p> <p>《経理における工夫》 監修料(振付・殺陣・歌唱・パントマイム)を削除し、演出家はその責務を担う。 経理としては、経費を見直し、そして速やかな帳簿管理を行うとともに本事業が滞りなくスムーズに実施出来るよう心がける。</p>			